

どの御教示を頂いた。同様のことが竹東 正氏の報文(1987)にもある。即ち“長谷川 仁氏からニシキキンカメムシがツゲの栽培地では被害のため薬剤散布をしているとの情報を頂いた”とある(P. 18)。どうもこのカメムシ ツゲに被害を与えている様で案外という所には多くいる種のようにである。

余談ではあるが始めに一寸紹介して新家 勝氏がわざわざコピーして送って下さった“森と海と清流の仲間たち”その後“日本の生物”7月号(Vol. 4, No.7, 1990)誌上に紹介があったものだから早速高知県国民休暇局自然保護課へ手紙を出して一冊領けて貰えないかと依頼した所自然保護課の橋本氏から既に本書は領布が終了してしまっておりまた販売はしていないのだが何か役に立つのであれば一冊贈呈するから利用して欲しいと云って送って頂いた。なかなか良い本で土佐の自然ガイドと云ったサブタイトルがついて160p. 全頁カラー印刷で昆虫に就いての写真による紹介が多く土佐を代表する虫たちの姿が美しく大変有益な文献である。わざわざ送って下さった橋本氏の御好意に厚く御礼を申しあげなくてはいけない。

ニシキキンカメムシは兵庫県下には棲息していることは間違いなく再確認を是非したいものだと思います。い乍らサッパリ成果があがっていない。会員の皆様方にも是非注意して頂きたいものである。

とりとめの無いことを書いたが“ニシキキンカメムシをめぐる(其の二)”と題してその後の気づいたことをとりまとめておいた。

(追記)最近(X・1990)広島の中村慎吾博士が“帝釈峡昆虫紀(九)ニシキキンカメムシとカメムシの民俗”と云うのを発表になり(帝釈文化 20号:3—10,1990)その別刷を御恵送頂いた。色々カメムシに関しての有益な解説があり大変参考になる報文である。ただニシキキンカメムシの分布の中に兵庫県が抜けている。兵庫県の記録文献を御存知無いのだと思はれる。

県関係文献紹介

○ 兵庫県生物学会但馬支部 但馬の自然 (のじぎく文庫)

のじぎく文庫平成元年度配本の一冊と云う形式で出版(1990年4月刊)されたものである(一般書店で1,300円で販売されている)。執筆者は26名で兵庫県生物学会但馬支部のメンバーを主体に但馬むしの会々員の方やその他の方も加わっている。全体のまとめは高橋 匡氏が中心になっているようだ。昆虫関係はチョウの木下賢司氏、トンボ(上田尚志・山崎喜彦氏)甲虫類・セミ・カメムシ類は共に上田尚志氏、アリは滝本恒夫氏(日本蟻類研究会)、水生昆虫は西村 登博士と仲々

当を得た方々が分担しておられる。高橋 匡氏は全体のまとめ以外但馬の自然探訪案内の所で登山として健筆をふるっておられる。全体を五章に別けてまとめられ登山・ハイキングガイド・滝めぐり、温泉めぐり、海岸めぐりの案内なども取められている。昆虫専門の書でもないので概略の説明といった所。一般の方を対象としてはわかりやすくまとめられていると思う。

○ 伊丹の自然 第8号 (1990年3月)

従来本誌は会宛に御送り頂いていたのであるが担当の方が変わった関係からか第7号より送って貰ってない。この度当会々員新家 勝氏が“武庫川の昆虫目録”を発表されてその第8号を御恵送頂いたので此処に紹介しておく。長年にわたる氏の武庫川(宝塚以南)で見られる昆虫をリストアップされ要領よくまとめられたものである。この川の流域も刻々と変化が進んでいる様なのでこのような記録を発表しておかれることは大変価値があると考えられる。

昆虫に関しては他に報文が見られない。この貴重な文献を御恵送下さった新家 勝氏に御礼を申しあげる。

○ 竹崎雅丹：神戸の小さな生き物たち

市民のグラフ こうべ No.213:2-19(1990.7)

昆虫のみならず小鳥、魚その他をふくむ神戸市内での生き物を写真で解説。昆虫ではコオイムシ、オオムラサキ、ゲンジボタル、キベリハムシなどが紹介されている。楽しい読物である(神戸市広報課発行 一部200円)

○ 兵庫陸水生物 No.36. 37.

兵庫陸水生物研究会10周年記念号 (1990.8)

兵庫陸水生物研究会が設立されたのが1981年1月である。本年度10年になることから10周年記念号が出版された。190頁にわたる大冊で多くの有益な報文が発表になっている。ただ陸水生物であるから昆虫ばかりで無いことは勿論である。この様な立派な記念号を出版された御努力に改めて敬意を表したいと思う(紹介者も2篇発表して頂いている)。

(T)